

3月、国際会議に出品

福岡で 開発秘話を講演

旭町・松井さん 「ベルサイユ」「加賀天神」...



国際会議に出品するツバキの手入れに当たる松井さん
＝もりの里2丁目

日本ツバキ協会金沢支部長の松井清道さん(61)旭町3丁目IIが開発した金沢産の新品種ツバキが、3月に福岡県久留米市で開かれるツバキの国際会議に日本代表として出品される。大輪の「ベルサイユ」や「加賀天神」など自作約10品種を特設コーナーに展示する。松井さん自身も日本の愛好家代表として開発秘話を講演することが決まり、世界との交流に期待を膨らませている。

松井さんは約30年前からツバキの人工交配を研究し、金沢原産の「加賀佐助」や「西王母」を基調にベトナムや中国原産の品種を掛け合わせるなどして数多くの新品種を生み出している。

珍しい黄色の花を咲かせる「金沢21世紀椿」や、駐日フランス大使のお墨付きを受けた大輪の「ベルサイユ」などは既に農林水産省に品種登録され、愛好家から高い人気を得ている。昨年6月に梅原天満宮に植樹された「加賀天神」をはじめ、前田家18代当主の前田利祐氏が命名し尾山神社に植えられた「尾山大輪」など金沢にちなんだ品種も多く、国際的にも注目を集めている。

今回、松井さんが参加するのは、3月20日に開幕する「第20回国際ツバキ会」久留米大会。2年に1度開かれている国際会議で、国内開催は4回目となる。今回は各国の研究者や愛好家約350人が出席し、最新の研究発表や情報交換を行う。松井さんは中国原産の「セミ・セラータ」と「西王母」を掛け合わせた最新品種などを出品するほか、交配成功の秘訣や苦労も語るといふ。

新年度以降には、現在の金沢支部を法人組織に移行し本格的な活動体制を整えることも検討しており、松井さんは「国際会議への参加を機に、今年を金沢ツバキ『開花』の年にしたい」と意気込んでいる。

県が進める台湾スキー客の誘致事業で16日、今季第1陣の47人が白山瀬女高原と白山一里野温泉の両スキー場を訪れる。小松―台北定期便で入国し、白山市内に4泊5日の日程で滞在する方向である。さらに別動隊で台湾のテレビと雑誌の関係者が9日から県内に入り、石川の冬の味覚とスキー場を取材することも決まった。

取材関係者も県入り

の両スキー場を利用する。

一方、テレビと雑誌の取材班は13日まで県内に滞在し、前半の3日間は兼六園や主計町、料理店、温泉旅館などで観光・グルメ関連の取材をし、後半の2日間は白山瀬女高原と白山一里野温泉の両スキー場を巡る。取材内容は今月下旬と2月下旬に現地のテレビ局「民視テレビ」の1時間番組で放映され、毎月10万部発行の人気雑誌「台北ウォーカー」にも掲載される。

台湾スキー客
16日に
第1陣

瀬女高原、一里野温泉

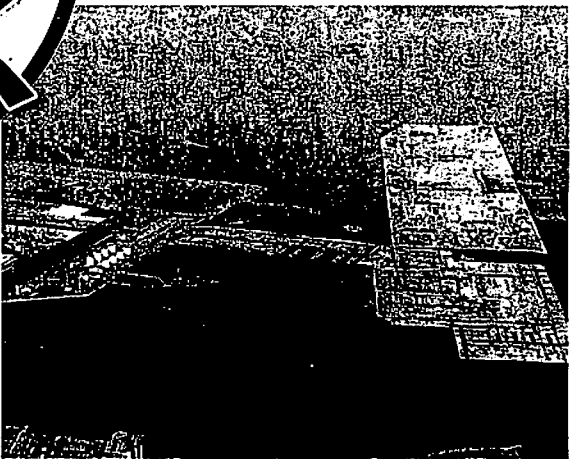
台湾スキー客の誘致は、台湾スキー協会などの協力を得て、昨季に始まり、初シーズンは約270人が県内でスキーやスノーボードを楽しんだ。2年目の今季は2割増の300人超を呼び込む計画で、第1陣は26人が白山瀬女高原、21人が白山一里野温泉

県によると、台湾内のスキー人口は、留学先の国や地域でスキーを覚えた人を中心に5千人程度にすぎないが、近年のスキー協会の活動などで一般市民にも普及し始めているという。さらに旅に明確な目的を持ったスキー客は、物見遊山型の一般的な観光客に比べ、不況や円高などに客足が左右されにくいともされ、県は「食の魅力も同時にアピールしながら台湾スキー客の誘致を定着させたい。観光開散期の小松―台北便の搭乗率確保にもつながる」(交流政策課)としている。

10月に新滑走路

羽田空港で建設が進む4本目の
滑走路(右) 昨年11月

国土交通省は5日、今年10月の新滑走路開設に伴って増える羽田空港の国内線発着枠(1日37便)の配分を決めた。20便は札幌、伊丹、福岡、那覇以外の路線にのみ使える「地方枠」とし、羽田便の割り当てでネットワークの充実を図りたい地方空港に配慮した。県は配分枠の決定を受け、航空会社に小松、能登空港の路線拡充を働き掛ける。



羽田発着の増加分

地方枠 手厚く

地方枠の設定は、国内線で、委員を務めた谷本正憲知事(全国空港建設整備促進協議会世話人幹

事)が提言していた。政権交代後は国交省の成長戦略会議で協議してきたが、今回の決定は同懇談会での地方の意見を色濃く反映する形となった。羽田空港の発着回数は10月以降、現在の年間30・3万回から40・7万回まで増える計画で、国内線は来年4月までに年間2・7万回分増加する。将来的には国内線をさら